

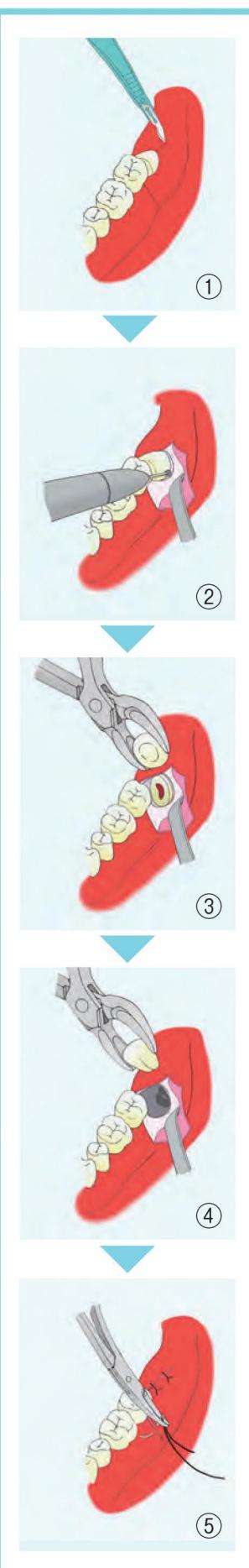
歯科口腔外科新シリーズ

北アルプス医療センターあづみ病院
歯科口腔外科副部長 飯島響



▲写真1

今回は口腔外科で扱う代表的疾患である親知らずについてお話しします。親知らずは「智歯」「大三大臼歯」「8番」などとも呼ばれ、通常、10代後半～20代前半に歯列の最後方に生えてきます。しかしその生え方は千差万別です。真っ直ぐに生えていて咬合に関与している場合もあれば、斜めに生えていたり、歯冠の一部のみが顔を出していいる方もいるでしょう。中には、生えてこない方もいるかも知れません。何故親知らずに限つてこのような違いが生まれるのででしょうか。その一番の要因は



顆の大きさです。現代人は軟らかい食べ物を食べるようになつたことで顎が細くなり、親知らずがはえるスペースが無くなつた結果、斜めや横など正常に生えない事が多くなりました。親知らずが正常に生え揃う確率は縄文人が8割だったのに対し、中世では4割まで下がり、現代人は3割とされています。さらに現在、10代女性の約半数には親知らずが存在していないうといふ調査も報告されており、将来的には親知らずは消失する運命にあるといえそうです。このような親知らずですが、真っ直ぐ生えている場合を除き、多くが抜歯の適応となります。親知らずが斜めに生えている場合、清掃性の悪さから汚れや歯石が溜まりやすくなります。その結果、親知らず自体が虫歯になります。その結果、親知らずが虫歯になると手前の歯が虫歯になってしまいます。

てしまふことがあります。また、親知らず周囲の歯肉が炎症を起こし晴れて痛みが出ます。では、親知らずの抜歯の手順をみていくまします(図1)。歯を覆つている骨を削り、歯冠を露出させます(図2)。歯を分割し先ず歯冠を摘出し(図3)、続いて歯根を脱臼させ抜去します(図4)。歯窩を清掃し洗浄後、縫合して終了です(図5)。親知らず抜歯の難易度は、埋まっている深さ、下歯槽神経との距離、7番との位置関係などによって変わります。難易度が高い抜歯は、多くの場合、歯科医院から紹介された口腔外科、病院歯科で行います。ぜひお口の中を見つけて頂き、斜めに生えている親知らずを見つけたら、かかりつけ歯科や口腔外科、病院歯科で相談してみて下さい。